Rethink フォーラム

視点を変えれば、世の中は変わる。

「Rethinkフォーラム」とは、「心みたされる明日をともに創りあげていきたい」という全国各地の皆さまとRethink PROJECTの考えが一つになって開催する地域に根差したイベントです。

テーマ Rethink岩手 ～盛岡の観光振興を考える～

年初に米紙ニューヨーク・タイムズによる「2023年に行くべき52カ所」に選定、9月には新市長が誕生するなど、この1年、変化の多かった盛岡市。今だからこそ盛岡の新たな魅力を再発見しようと、盛岡市長の内舘茂さん、いわて応援芸人の天津木村さん、JT岩手支社長の沼井哲哉さんが語り合いました。モデレーターはIBC岩手放送アナウンサーの今井日奈子さん。それぞれの視点から盛岡をRethinkした鼎談（ていだん）「Rethink岩手～盛岡の観光振興を考える～」（岩手日報社主催、RethinkPROJECT協賛）の様子をお伝えします。

会場協力=ホテルメトロポリタン盛岡

モデレーター

今井日奈子さん（IBC岩手放送アナウンサー）

1997年川崎市生まれ。立教大卒業後、2019年にIBC岩手放送にアナウンサーとして入社。テレビ番組MC、ラジオパーソナリティー、イベントMCなど幅広く活躍している。

出席者

内舘茂さん（盛岡市長）

1966年盛岡市生まれ。学習院大卒業後、大手住宅設備機器メーカー勤務を経て、家業を継ぐため帰郷。2003年丸乃タイル（現・マルノ）代表取締役社長。設立した理創生活の代表取締役などを歴任。23年9月、盛岡市長に就任した。

沼井哲哉さん（JT岩手支社 支社長）

1972年神奈川県藤沢市生まれ。1991年、日本たばこ産業株式会社（JT）に入社。関東営業本部、東京支店、横浜支店などを経て、石巻支店、秋田支店、盛岡支店で支店長を務めた。2022年から岩手支社長として勤務。

天津木村さん（いわて応援芸人）

1976年兵庫県姫路市生まれ。1992年にお笑いコンビ「天津」を結成。2021年、番組MC就任を機に盛岡市に移住。いわて応援芸人として、盛岡市「もりおか魅力発信大使」、岩手県「いわて暮らしアンバサダー」などを務める。

テーマ01 「世界で行くべき場所に選定」

【今井】まずは皆さんから、自己紹介を含め、盛岡の魅力や好きなところを伺いたいと思います。

【内舘】僕は盛岡の真ん中で生まれ育ちました。現在の盛岡城跡公園、中津川の辺りが遊び場でした。僕の中の原風景は、毘沙門橋から見た川の風景です。街はどこかを中心に同心円状に広がっていくものですが、盛岡は少し変わっていて、盛岡駅から河南エリアに向けた道に沿って発展してきたんです。この道は、まさに市民が守り育ててきたもの。盛岡の街の特徴でもあり魅力だと思います。

【木村】僕は兵庫県姫路市出身で、岩手の放送局で朝の番組のMCをさせていただくことをきっかけに2021年に盛岡に移住しました。姫路も城下町なんですが、盛岡も昔の地名が残っていたり、あちこちに歴史の風情を感じたりと城下町らしい「品」を感じます。それからサイズ感がいいですね。必要なものが過不足なくそろっていて、少し行けば豊かな自然や温泉もある。ぴったりの靴を履いているようなフィット感を感じる盛岡が大好きです。

【沼井】私は神奈川県出身で、木村さんと同じく21年に盛岡に赴任してきました。初めて盛岡に降り立ったとき、盛岡駅と西口をつなぐ連絡通路から見た岩手山の美しさに感動しました。また私は趣味がジョギングなんですが、とにかく走っていて気持ちがいい。風景や自然の美しさはやはり魅力の一つですね。それから「人の良さ」。例えば信号のない横断歩道で皆さんが必ず止まってくれることに、小さなカルチャーショックを感じました。

【今井】今年、盛岡市は米紙ニューヨーク・タイムズの「2023年に行くべき52カ所」の2番目に選ばれましたが、その発表の後に感じた変化はありますか。

【木村】駅でも街中でも、キャリーバッグを持った国内外からの観光客を見かけるようになりましたね。「類は友を呼ぶ」じゃないですけど、マナーのいい人が多いなって感じるんです。悪いことしたらあかん、ルールを守ろう、という空気感が漂っているような。それは盛岡だからじゃないのかなと思うんです。

【沼井】以前は団体客が多かった気がするのですが、今はカップルやファミリーなど少人数での旅行者が増えてきたように感じます。それから、行政と一緒になり、この街の皆さん自身がより積極的に街ににぎわいを生み出そうとしている印象も受けます。

【内舘】商店街をはじめ観光地や街の皆さんは、コロナ禍で本当に苦しみました。だからこそ力を合わせ、積極的に頑張ろうとしているのだと思います。数字だけ見るとコロナ禍前にやっと戻ってきたという状況です。もっともっと多くの人に盛岡に来ていただきたいですね。

【木村】街がにぎわうことは、その街の「温度が上がる」ということ。その熱さは人を引きつけますよね。

今年50年の節目を迎えた盛岡市の材木町よ市=9月10日付岩手日報朝刊

テーマ02 「見えないものに価値を見いだす」

【今井】国内外からのお客さまが増えるということは、いろいろな視点から盛岡が見られるということでもあります。新しい盛岡の魅力や、実は知られていない盛岡の魅力についてお考えをお聞かせください。

【内舘】今回のテーマである、見方を変えることで新しい魅力を発見する「Rethink」は、僕もずっと考えてきたことです。Rethinkはまさにこれからの盛岡にとって必要なものだと思います。建物、文化、歴史、芸術…、盛岡には古いもの、歴史あるものがたくさんあります。古くなったから壊して新しいものにするのではなく、古いものに新たな価値を見いだし、それを魅力に変えていく。目に見えるもの、そして見えないものも含めて、盛岡には大切にしていくべきものがたくさんあると思います。「文化の薫る街・盛岡」という言葉がありますが、そんな盛岡をまた新たな視点でつくっていくべきだと感じています。

【今井】目に見えないものを伝えていくためにも、目に見えるものを残すことも大切ですね。

【沼井】実は私は、赴任してくるまで盛岡のことをまったく知らなかったんです。でも来てみたら、素晴らしい魅力がたくさんありました。大切なのは、盛岡に来ていただくきっかけをどれだけつくれるかだと思うんです。盛岡は位置的に秋田や青森観光の通過点になりがちですが、県をまたいで連携し、まずは盛岡に降り立ってもらうような、盛岡を拠点にしながら北東北を観光できるような仕組みができたらいいだろうなと感じています。

【今井】木村さんは、「もりおか魅力発信大使」も務めていらっしゃいますね。

【木村】僕も盛岡に来る前、岩手や盛岡出身の方にどんな場所なのか聞いたんです。すると「食べ物がおいしくて、自然がたくさんあって、人が優しい」とみんなが口をそろえる。正直、どこも地方はそうでしょうと思ったんですが、実際来てみたら、その3本柱が想像以上にすごく太かったんです。盛岡に住んでいらっしゃる方からしたら、それは当たり前のように感じているのかもしれませんが。例えば、大人にはなんにもないように見える道が、子どもの視点で見れば花束が作れるほどいろいろな花が咲いているとても楽しい道になるように、県外から来た人が見れば盛岡には素晴らしいものがたくさんあるんです。だから、変えるのではなく、貫き通すという考え方もあるのかなと思います。そこに多少の「遊び心」を加えたら最強です。例えば「52カ所に選ばれたソング」を作るとか（笑）。今ある「当たり前」に目を向けて、そこに遊び心を加えることもRethinkといえるのではないでしょうか。

テーマ03 「みんなの声を街づくりに」

【今井】今後さらに多くの方に盛岡の魅力を伝えるために、どのような情報発信が必要だと思いますか。

【木村】盛岡や岩手の方はアピール下手だといわれますが、もう逆に「内緒です」と情報を一切出さないとか。「来てみないと分かりません」みたいな（笑）。それで「What's 盛岡」というソングを作る！

【今井】斬新ですね。

【沼井】盛岡に来たことのない人に「なんで来ないのか」とその理由を聞いてみたら、そこにヒントが隠れているかもしれないですね。

【内舘】「ここに来ないと分からない、食べられない」という視点はいいですね。観光面でいうと、やっぱり盛岡の「推し」はさんさ踊りだと思うんです。だから祭り期間以外にも、1年中さんさが見られる環境も整備していきたいですね。

【今井】沼井さんは岩手支社長として、今後、盛岡でしていきたいことはありますか。

【沼井】私たちも、地域の皆さんと共に地域の活性化に取り組んでいきたいと考えています。今年のさんさ踊りでは「ひろえば街が好きになる運動」として、盛岡市の職員の皆さんや市民の皆さんとさんさ会場のごみ拾いをさせていただきました。これは、拾うという行動が捨てない心を醸成するという思いの下、全国で行っている当社の活動です。またフードバンク岩手様の活動をお手伝いし、フードポストからの食品の回収にも協力させていただいています。今後も地域に拠点を置く企業として、少しでも地域貢献できたらと考えています。

【内舘】今日は皆さんのお話を聞き、ここに暮らしているからこそ気付けないことがたくさんあるのだと思いました。市長になりまだ間もないですが、これからも、市民の皆さんはもちろん、観光客や転勤者など外から来た方々、そして地域で活動する企業の皆さんからの声、大きな声ばかりでなく小さな声にも耳を傾け、魅力あふれる街づくりに取り組んでいきたいと思います。声を聞くということは、自分たちの街は自分たちの手でつくっていけるんだと市民の皆さん自身が思えること。そんな街づくりをしていきたいですね。

【木村】みんなで楽しくよりよい街にするぞと、街の温度を上げていくことが何より大切だと感じました。僕たちここに住む人間が根気強く取り組んでいったら、盛岡がより素晴らしい街になること、あると思います！

【今井】今日のお話の中には、盛岡をさらに盛り上げるヒントがたくさんあったと思います。Rethinkの視点を持ちながら、これからも盛岡の魅力を世界に発信していきたいですね。皆さん、ありがとうございました。

ひろえば街が好きになる運動

主催・岩手日報社　協賛：Rethink PROJECT